

平成22年度 南少 事業報告

I. 基本方針

昨年度は、幼児をはじめ低学年の入所が進んだものの、定員に達したのは後半であった。昨年度と違い、新年度のスタートは29名であり、より継続性を持った支援をおこなう必要がある。

近年、家庭への支援や調整が特に必要なケースも増え、より社会的資源等と共に連携して支援をおこなう必要性が高まっている。地域においても、支援の必要な児童や家庭があり、児童養護施設としての社会的使命を果たしていく重要性も同時に高まっている。

また、社会福祉法人の設立や施設の建て替えが急務となり、この機会に次世代につながる施設機能を持つ「南海少年寮」へと転換しなければならない時期となっている。

そのことから、新たな社会福祉法人としての使命や、児童養護施設南海少年寮の機能や支援のあり方、新たな機能について、研鑽をしなければならない。なおかつ、現在入所している児童や家庭への支援も、意識の変革やより工夫すべきこともある。

以上のことから、今年度は次世代に通用する機能や支援の研鑽と、具体的な活動を両立させていくことを一番の柱とする。時間的な制約があり、すべてにおいて急を要するが、さまざまな社会資源と共に法人役員等および施設職員が一丸となって、具現化していく必要がある。

地域とのつながりにおいては、「三里みらい会議」の主催や事務局として、地域貢献を果たさなければならない。

■ 総 括

地域とのつながりにおいて、要保護児童対策地域協議会のモデル地区の一つとして三里中学校区が立ち上がり、地域の関係者と共に取り組み始めることができた。将来的に児童家庭支援センターを設置できれば、さらに地域と連携して取り組みを推進できると考えられる。

社会福祉法人の設立と施設の建て替えにおいて、十分な検討や研鑽ができず、焦りや理想を求めすぎてしまった。また、法人として機能できていないところや、不適切な処理など、反省し改善すべき点がある。監査等の指導を真摯に受けとめ、適切な運営に向けて最大限の努力をしていかなければならない。

II. 重点事項

① 小規模グループケアの実施、及び、処遇の見直し

【評価】

小規模グループケアは、落ち着きや自活生活の一定の効果はあるが、やはり勤務上ゆっくりと話をしたりする時間が取れ内実城があった。部屋ごとでまとまりを見せた面もあるが、分かれているため多少の違いはあった。年齢差があるため、難しい面もあったが全体的には落ち着いて過ごせ、今後さらに工夫しながら継続していかなければならない。

② 低学年や幼児への支援の充実

【評価】

グループで担当したことで、多くの職員が幼児・低学年とかかわる場面が増えた。しかし、細かいところで引き継ぎ問うがうまくできていないところもあり、今後の課題である。また、ミニバスや野球等のクラブの参加は、皆それぞれの成長が見られ成果があった。

③ 子どもサポート委員会の充実

【評価】

委員会の機能を十分に活用できずに終わったため、今後の課題となった。

④ 地域交流及び情報公開

【評価】

夏まつりやみさとフェアを通じて地域交流等はできたが、その他の地域貢献や情報公開等は、まだ十分でないところがあり、今後充実を図っていく必要がある。

⑤ 建物の建て替えに関する調査・研究等をおこない、支援のあり方も次世代へつなげるものを確立していく

【評価】

理想を求めるだけでなく、現状や現実の問題等をきちんと把握し、地に足をつけたものへ堅実に進めていく必要がある。